

〒271-0094 松戸市上矢切299-1 総合福祉会館2階  
 電話:047-308-5028 / FAX:047-366-1138  
 MAIL:matsudo-kanban@bz04.plala.or.jp

ともにいきる  
**共生**

## 『世帯まるごとin小金』を開催しました ▼新松戸市民センターホールにて

「世帯まるごと企画」は、縦割りでない地域福祉を、松戸市内の3環境区(中央・小金・常盤平)ごとに深めていこうという、地域の事業所のみなさんの声掛けで始まった企画です。

### ●企画の趣旨

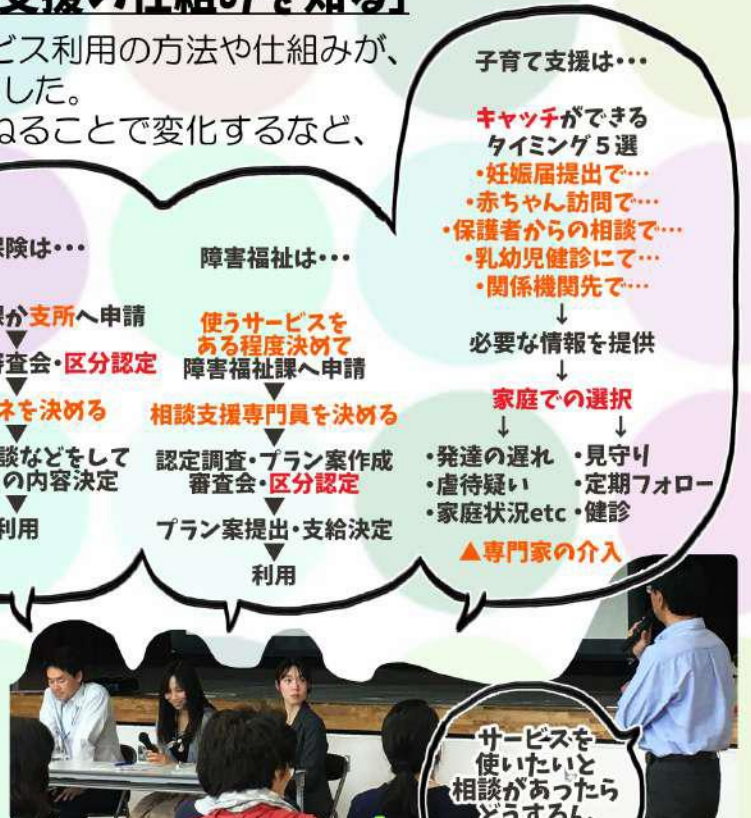


### ●第1回「それぞれの分野のサービスや支援の仕組みを知る」

高齢者・障害者・子ども、それぞれの分野のサービス利用の方法や仕組みが、どのようになっているかを比較しながら解説しました。

子どもにまつわるサービスは、年齢や成長を重ねることで変化するなど、複雑であるなか、母子保健、保育、教育、児童福祉の専門家が様々な過程で介入し支援を繋いでいく仕組みがわかりました。

介護保険と障害福祉サービスは障害福祉から介護保険サービスへの移行の事例をあげ、各々がもつ視点の違いに焦点をあてました。



参加者の一言PRタイム

第1回  
令和元年6月12日  
参加者数 63名

居ケア	就A	特支
地活	老健	子家相
サ資	特養	サビ管
要対協	サ高住	

#### ◀略語クイズ

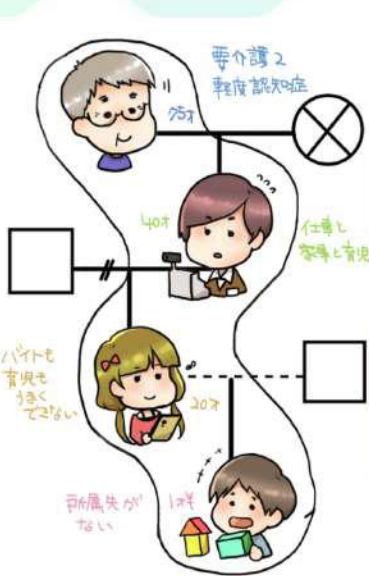
普段現場で飛び交うサービス名や役職、機関、協議会などの略称…多職種連携が増えているなか、心と耳にしてもわからないままスルーしていることが多いのではないのでしょうか。

企画メンバーの中でもこの話は盛り上がりました。連携のハードルを下げるためにも、略称を知ることが大事かもしれません。ちなみに障害福祉は略称が大変多い様子です…

## ●第2回「経済的困窮と虐待からみる分野をこえた連携」

第2回は、「生活保護受給基準からは外れるものの、様々な要因から必要経費が払えず経済的に切迫している世帯が、結果的に虐待(ネグレクト)に陥ってしまっている」という、4世代家族の事例を取り上げました。一連の支援について、関係者同士の電話のやり取りを演出し、経済的困窮にはどんな要因があるのか、世帯の課題の紐解きをみなさんと行いました。

第2回  
令和2年1月23日  
参加者数 37名



グループワークは、高齢、障害、子どもそれぞれの職種のみなさんが混ざった支援チームと仮定し取り組みました。

家族の誰に関する、どんなところが「世帯の課題」となっているのかをあげ、出た課題について、グループ内で「思いつく解決方法」と「解決できなかった課題は、どこに協力を求めるか」について検討しました。

スムーズな連携を行うには、まずお互いの役割や考えの違いを理解していくことから始まります。

今回の企画で、多職種で意見を交わすことによって、それぞれの支援対象者だけをみてもわからなかった、課題解決への道筋の発見に繋がることがわかりました。

## ●多職種連携には何が必要？(第1回・第2回アンケート集計結果を合わせたものです)

日頃の支援の中で、他の分野の支援機関とうまく連携ができた理由は？

- ・事業所の方が協力的だった。
- ・こまめな情報共有、連絡調整をして役割分担を行った。
- ・地域ケア会議の活用がうまくできた。
- ・日頃から連絡を取り合っている保健師さんだった。
- ・自分の事業所の近くだったので行き来も多く何度も話しができた。
- ・顔の見える関係だと繋がりがやすい。

うまく連携できなかった理由は？

- ・先方の役割と動きがわからずうまく伝えられなかった。
- ・本人のサービス利用が多岐にわたり、関係者が多すぎて互いの理解協力が得難かった。
- ・目指すことやゴールが共有できるときはうまくいくが出来ないときは難しさがあった。
- ・複雑な課題を抱えるケースだった。

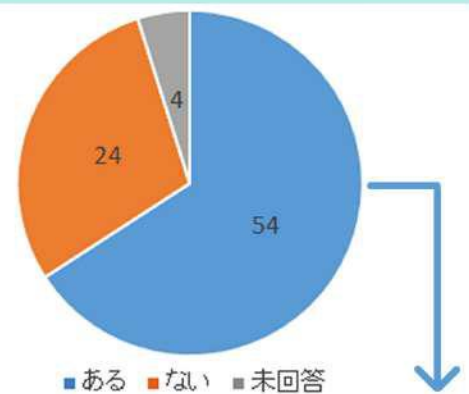
連携に必要なだと思うことは？

- 1位 知ること……どこにどんな事業所があるか、制度、資源など
- 2位 顔の見える関係……どこの事業所に誰がいるか
- 3位 理解する……役割、視点の違い、支援内容など
- 他 情報共有……日頃の支援で、勉強会や研修会で  
問題に気づくこと……気づけないと相談しようとも  
思えないから

アンケート回収率

第1回 76%(48名/63名中)  
第2回 92%(34名/37名中)

他の分野の支援機関と連携したことが…



「連携したことがある」と答えた方について連携はうまく…？

